

[シラバス 目次]

【基礎科目】

福祉健康科学特論Ⅰ	1
福祉健康科学特論Ⅱ	2
地域医療健康増進科学特論	4
地域福祉特論	5
家族・コミュニティ心理学特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	6

授 業 科 目 名 (科目の英分名)
福祉健康科学特論Ⅰ (Special SeminarⅠ in Welfare and Health Sciences)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
必修	2	1	前期	月・6	相澤仁、片岡晶志、上白木悦子、川村岳人

【授業のねらい】

本研究科の目的は「地域共生社会の概念を理解し、多角的な方向からその実現を担うことができるパイオニア」を養成することである。そのためには、まず、「福祉健康科学」や「地域共生社会」の概念を確実に理解するとともに、関連する取組の実際を具体的に理解しておく必要がある。この科目では、二年間の学修を始めるにあたり、まず「福祉健康科学」や「地域共生社会」について深く学び、それをもって今後の学修の基礎とすることをねらいとする。

【具体的な到達目標】

- ・福祉健康科学の内容およびその意義と独自性について具体的に説明できる。
- ・地域共生社会の概念を整理した上で、重要な理論や方法について説明できる。
- ・地域共生社会の実現に関して注目される複合的問題について理解を深め、介入すべきポイントを示すことができる。
- ・地域共生社会の実現を推進する行政の方針や政策を理解するとともに、専門家として必要な倫理や義務を示すことができる。

【授業の内容】

- 第1回：福祉健康科学の概要：歴史・定義・意義・学問的な位置付け（片岡）
 第2回：福祉健康科学の内容：目的・対象・方法（片岡）
 第3回：福祉健康科学の成果と課題：主要な取り組みと今後の展望（片岡）
 第4回：地域包括ケアシステムの強化と地域共生社会の概念（相澤）
 第5回：地域共生社会の諸相（1）：対象者の拡大（相澤）
 第6回：地域共生社会の諸相（2）：総合的な支援の強化と支援のためのネットワークづくり（相澤）
 第7回：地域共生社会の諸相（3）：複合的な課題（川村）
 第8回：地域共生社会の諸相（4）：地域・コミュニティという視点（川村）
 第9回：地域共生社会実現に向けた取組（1）：全国の先進的・特徴的な取組（川村）
 第10回：地域共生社会実現に向けた取組（2）：大分県での取組（相澤）
 第11回：複合的問題への具体的対応（1）：どう理解するか（上白木）
 第12回：複合的問題への具体的対応（2）：どう支援するか（上白木）
 第13回：行政や政策に関する知識と地域共生社会への活用（相澤）
 第14回：専門家としての倫理と義務（上白木）
 第15回：ミニ・プレゼンテーション：地域共生社会実現のために必要な資質・能力とは（相澤）

☆学生がより深く学ぶための工夫

担当教員をファシリテーターとしたディスカッションを取り入れることで、様々な視点や考え方に触れ、自らの立場を明確にするとともに他との結節について学びを深める。また、視聴覚教材や事例を提示し具体的な学びを促す。専門用語等については適宜レジュメを配布し、解説を行う。

【時間外学習】 授業の進行にあわせて指示する。また、課題となる事項について関心をもって調べること。

【教科書】 なし。資料は適宜配付する。

【参考書】 授業の進行にあわせて指示する。

【成績評価の方法及び評価割合】 最終レポート（70%）、授業への積極的な参加（30%）

【注意事項】 受講生には積極的な参加を求める。

【備考】 なし。

授 業 科 目 名 (科目の英分名)
福祉健康科学特論Ⅱ (Special Seminar Ⅱ in Welfare and Health Sciences)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
必修	2	1	後期	月・6	渡邊亘、河上敬介、川村岳人、飯田法子

【授業のねらい】

福祉健康科学特論Ⅰで得た「福祉健康科学」と「地域共生社会」に関する理解に基づき、健康医科学、社会福祉科学、臨床心理学の専門的な視点や技法がいかに関「地域共生社会」の実現に役立つのか、具体的な取組事例（個の支援および地域・コミュニティ支援）にも触れながら深く学ぶ。また、それらの視点を結節させ、連携と協働のもとに、「地域共生社会」を牽引する方策あるいは資質・能力について考究する。これにより、医療、福祉、心理を俯瞰し、多角的・総合的な支援を実践できる知識と技術の伸長を進める。

【具体的な到達目標】

- ・専門領域を深く知るスペシャリストであることと、他領域を広く知るジェネラリストであることの対立線上で専門家としての職能を考えていくことの意義を説明することができる。
- ・個の支援と地域・コミュニティへの支援の両方に関する自らの専門性（視点や技法）の特徴・意義を確認するとともに、他の専門性についても理解を深め、両者の異同を明確にすることができる。
- ・様々な専門性が結節することの意義・重要性を深く理解し、具体的に示すことができる。
- ・結節と連携を牽引し、地域共生社会の実現を担うために必要な資質・能力について明確に示すことができる。

【授業の内容】

第1回：職能としての「スペシャリスト」と「ジェネラリスト」（渡邊）

第2回：健康医科学は地域共生社会の実現になぜ必要か（河上）

第3回：地域共生社会と身体健康支援（1）：取組と成果（河上）

第4回：地域共生社会と身体健康支援（2）：課題と展望（河上）

第5回：ディスカッション：健康医科学の視点と技法を地域共生社会の実現に生かすために（河上）

第6回：福祉社会科学は地域共生社会の実現になぜ必要か（川村）

第7回：地域共生社会と生活支援：取組と成果（川村）

第8回：地域共生社会と生活支援：課題と展望（川村）

第9回：ディスカッション：福祉社会科学の視点と技法を地域共生社会の実現に生かすために（川村）

第10回：臨床心理学は地域共生社会の実現になぜ必要か（飯田）

第11回：地域共生社会と心の健康支援（1）：取組と成果（飯田）

第12回：地域共生社会と心の健康支援（2）：課題と展望（飯田）

第13回：ディスカッション：臨床心理学の視点と技法を地域共生社会の実現に生かすために（飯田）

第14回：連携と協働を牽引するための資質と能力（渡邊）

第15回：ミニ・プレゼンテーション：医療・福祉・心理の結節をどのように進めるか（渡邊）

☆学生がより深く学ぶための工夫

節目となる回に担当教員をファシリテーターとしたディスカッションを行い、様々な視点や考え方に触れ、自らの立場を明確にするとともに他との結節について学びを深める。また、視聴覚教材や事例を提示し具体的な学びを促す。専門用語等については適宜レジュメを配布し、解説を行う。

【時間外学習】授業の進行にあわせて指示する。また、課題となる事項について関心をもって調べる。

【教科書】なし。資料は適宜配付する。

【参考書】 授業の進行にあわせて指示する。
【成績評価の方法及び評価割合】 最終レポート（70%）、授業への積極的な参加（30%）
【注意事項】 受講生には積極的な参加を求める。
【備考】 なし。

授 業 科 目 名 (英語名)					
地域医療健康増進科学特論 (Advanced lectures on sciences on community medicine and health promotion)					
必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	後期	木・6	宮崎英士、白石憲男、兒玉雅明、朝井政治
【授業のねらい】 本科目のうち、地域医療の分野では、現在行われている地域医療についてがん患者の事例を中心に学修する。健康増進分野では事例や先行研究を通じて、健康増進に関する課題と問題解決の方法を学修する。以上を通して、地域医療や健康増進に関する研究を遂行するために必要な理論および実践的な方法論を身につける。					
【具体的な到達目標】 ・ 具体例を通して、現在実施されている地域医療について説明できる。 ・ 疾病予防・健康増進をすすめるためのポイントが説明できる。 ・ 提示された情報の中から必要な情報を分析し、問題解決に必要な研究計画が立案できる。					
【授業の内容】 第1回：地域・在宅医療学（宮崎） 第2回：地域医療におけるがん治療学（宮崎） 第3回：地域医療・総合診療学（宮崎） 第4回：地域医療にねざした内視鏡外科治療学（白石） 第5回：健康増進へ向けた外科腫瘍学（白石） 第6回：地域検診における疾病予防対策（兒玉） 第7回：地域での内視鏡診療の進化（兒玉） 第8回：地域における診療学特論1（兒玉） 第9回：地域における診療学特論2（兒玉） 第10回：地域の健康増進事業に関する取り組みから学ぶ（研究の課題抽出、情報収集）（朝井） 第11回：地域医療（検診事業）に関する取り組みから学ぶ（調査結果の統合と解釈）（朝井） 第12回：学修成果の発表、討議（朝井） 第13回：地域の介護予防事業の取り組みから学ぶ（研究の課題抽出、情報収集）（朝井） 第14回：健康増進・介護予防事業の取り組みから学ぶ（調査結果の統合と解釈）（朝井） 第15回：学修成果の発表、討議（朝井） ☆学生がより深く学ぶための工夫 事例を用いた実践的な講義の実施、少人数討論（ディベート）の実施					
【時間外学習】 配布資料を使つての予習／復習の実施					
【教科書】 なし					
【参考書】 なし					
【成績評価の方法及び評価割合】 授業への積極的な参加（20%）、課題レポート（40%）、報告会での発表内容（40%）					
【注意事項】 提示資料の取り扱いに注意すること					
【備考】 なし					

授 業 科 目 名 (科目の英分名)
地域福祉特論 (Special Seminar in Community Development)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	前期	水・6	川村岳人

【授業のねらい】

近年、経済構造の変化によって社会的な課題を解決する「空間的単位」が小さくなり、社会的孤立や社会的排除など福祉問題の多くが地域ごとにローカルに読み解く必要が高まっています。この授業のねらいは、こうした地域で生じている福祉問題を構造的に理解するとともに、複合的なニーズを抱える人々を地域でいかに支援していくか、また、そうした人々を支えるためには地域にどのように働きかけているのかを考えることです。

【具体的な到達目標】

この授業の到達目標は、地域住民の抱える福祉問題やその背景・構造を把握するとともに、福祉問題の様々な姿を実証的に把握し、地域を基盤としたソーシャルワークのあり方と実践の条件を考えます。

【授業の内容】

第1回：現代社会と地域福祉（既存の制度による解決が困難な課題への対応）
 第2回：地域福祉の理念と地域共生社会
 第3回：地域福祉の理論
 第4回：地域福祉の主体(1) 地域福祉の主体認識
 第5回：地域福祉の主体(2)公的機関（地域を基盤とする包括的支援体制の構築）
 第6回：地域福祉の主体(3)地域住民（住民相互の支え合い機能の強化、公的支援との協働）
 第7回：地域福祉の制度・政策
 第8回：地域共生社会の実現に向けた諸問題(1) 課題の複合化、制度の狭間
 第9回：地域共生社会の実現に向けた諸問題(2) 社会的孤立
 第10回：地域共生社会の実現に向けた諸問題(3) 社会的排除・空間的排除
 第11回：地域ニーズの把握(1) 量的調査
 第12回：地域ニーズの把握(2) 質的調査
 第13回：地域福祉の援助技術(1) コミュニティワーク
 第14回：地域福祉の援助技術(2) コミュニティソーシャルワーク
 第15回：地域共生社会の実現に向けた地域福祉実践理論の展望
 ☆学生がより深く学ぶための工夫
 担当教員が論題を提供し、グループディスカッション形式で授業を行う。

【時間外学習】講義内容に関連する文献や論文などを用いて理解を深め、集団討議に参加する準備をしておいてください。

【教科書】講義内容に即した論文や資料を配付します。

【参考書】平野隆之（2008）『地域福祉推進の理論と方法』有斐閣
 岩間伸之・原田正樹（2012）『地域福祉援助をつかむ』有斐閣。

【成績評価の方法及び評価割合】講義（特にグループディスカッション）での貢献度（30%）、レポート（70%）

【注意事項】授業のなかでグループディスカッションの時間を設けます。グループディスカッションの内容や受講者の理解度等に応じてシラバスの内容は順番が変わったり、一部が変更となったりする場合があります。

【備考】特になし

授 業 科 目 名 (英語名)
家族・コミュニティ心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践) (Special Seminar on Family, Group and Community Psychology (Support Theory and Practice for Family, Group and Community))

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
選択	2	1・2	後期	金・6	飯田法子
【授業のねらい】 心理臨床の現場では、クライアントへの支援だけでなく「家族・集団・地域社会」全体を支援する視点も求められる。本授業では「家族関係・集団・地域社会」に対する心理支援の知識を習得し、医療や福祉をはじめとする多職種との協働と総合的心理支援について実践的に学ぶ。					
【具体的な到達目標】 ・「家族関係・集団・地域社会」への心理支援の知識を習得すること ・「家族関係・集団・地域社会」への心理支援の技術を事例検討やロールプレイを通して身に付けること ・「家族関係・集団・地域社会」への心理支援に必要な、多職種協働のあり方（専門性の尊重を軸としたマネジメント力、心理学的理解の伝え方、責任をもった役割遂行、連携を図る上での常識的な態度）などの知識を習得すること ・「家族関係・集団・地域社会」への心理支援に求められる態度を養うこと					
【授業の内容】 第1回：オリエンテーション：授業の目標および内容 第2回：家族関係における心理支援（1）：概論 第3回：家族関係における心理支援（2）：家族療法 第4回：家族関係における心理支援の実践（1）：事例の検討を通して学ぶ 第5回：家族関係における心理支援の実践（2）：ロールプレイ 第6回：集団における心理支援：概論 第7回：集団における心理支援の実践（1）：事例の検討を通して学ぶ 第8回：集団における心理支援の実践（2）：ロールプレイ 第9回：地域社会における心理支援（1）：概論 第10回：地域社会における心理支援（2）：多職種協働（チームワーク） 第11回：地域社会における心理支援（3）：心理支援の展開（アウトリーチ） 第12回：地域社会における心理支援（4）：災害支援 第13回：地域社会における心理支援の実践（1）：架空事例の検討を通して学ぶ 第14回：地域社会における心理支援の実践（2）：ロールプレイ 第15回：まとめ：「家族関係・集団・地域社会」の心理支援と心理職としての自分の課題 ☆学生がより深く学ぶための工夫 能動的な調べ学習やグループ・ディスカッションを通じて、学生の動機づけを高め、深い学びに導く。					
【時間外学習】 上記の内容に関する課題（詳細は別途指示する）					
【教科書】 使用しない					
【参考書】 適宜紹介する					
【成績評価の方法及び評価割合】 上記の内容に関する取り組み（50％）、最終レポート（50％）					
【注意事項】 なし					
【備考】 この科目は臨床心理士受験資格取得に関するC群科目であり、公認心理師受験資格取得に関する必修科目である。					